

環境報告書発行にあたり

当社は事業活動においてISO14001:2000環境マネジメントシステムを環境管理のツールとして常に環境に配慮した経営を目指しています。

地球温暖化や有害物質による汚染等地球環境は末期的な様相を呈しているように思います。当社の事業活動においては、省資源や省エネルギー及び廃棄物削減等や薬品漏洩事故等による水質汚濁や土壌汚染等を発生させないなど環境に配慮した取り組みが必要であり、持続可能な社会創りへ貢献すべく活動しております。

当社は金属表面処理を主な業種としており、県内3事業所及び山形県にある関連会社共々事業特性である危険有害物の漏出や盗難及び排水における排出水の基準値超過を発生させないよう常に環境に配慮し、監視・測定や定期的な訓練を実施して予防処置を行っています。

事業活動に伴う環境負荷の状況としては、電気使用量、重油使用量の低減や産業廃棄物等の排出抑制に取り組みし、2006年度は全ての目標を達成しており、その結果及び内容をこの環境報告書で社会へ公表します。

代表取締役社長
原 房利

大和電機工業株式会社は、自らの責任で地球環境の保全に取り組み、社会から愛され、信頼・存続を望まれる企業を目指します。

大和電機工業株式会社の基本理念

当社では創立以来、経営理念としての「社訓」に「信頼」を掲げ、お客様や全てのステークホルダーに信頼される存在であり続けること。愛される製品作りと愛される会社になることを目標に取り組みして参りました。近年、コンプライアンスを軽視した事故や事件が報道されていますが、当社では関係する該当法規制や当社が同意するその他の要求事項を順守し、国際的に要求が高まっている「企業の社会的責任(CSR)」を果たすよう努めています。

大和電機工業株式会社の経営方針・品質方針

「熟慮・即実行」

大和電機工業株式会社の環境方針

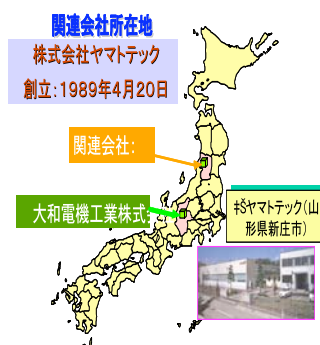
「環境負荷の低減は一人一人の活動で！」

◎環境経営報告書 2006 の編集方針

当社は、環境保全と利益創出を同時に実現する「環境経営」を目指しています。当報告書は、環境経営の考え方や推進方法、活動事例などを分かりやすく情報開示し、社員・社会とのコミュニケーションを図るとともに、社会からの信頼を得るために発行します。

対象組織

本社	長野県諏訪郡下諏訪町東四王 5197 番地
松本事業所	長野県松本市今井 7066-3 番地
諏訪事業所	長野県諏訪市中洲 4750 番地
下諏訪事業所	長野県諏訪郡下諏訪町北四王 5183 番地
(関連会社 ヤマトテック)	山形県新庄市大字福田字福田山 711-108)



事業概要

- ◎ 電子部品（プリント基板、セラミック基板、リードフレーム、コネクタ、チップ抵抗等）およびフレキシブルテープ等の電解・無電解金属表面処理業務
- ◎ 電子部品の印刷・組立および実装検査と電子部品組立装置、電子部品処理装置（乾燥、選別）等の設計・開発・製造および販売業務

2006 年度 社長念頭挨拶



代表取締役社長
原 房利

2006年の幕開けを迎え、社員の皆さん、ご家族の皆さんが、健やかに新年を迎えられましたこと心からお慶び申し上げますと共に、新たな年に対する期待が膨らんでおられると思います。

しかしながら今年の冬は、日本列島を大寒波と大雪が襲い、自然環境の変化が、徐々に日本列島、地球全体を蝕んできており、自然美溢れる環境を取り戻すための活動を私たちも率先して進めていかなければいけません。また私たちの周囲では、凶悪・卑劣・残忍な事件・犯罪・事故の報道を耳にしない日がありません。幼い命を奪ったり、耐震強度偽装事件など、人の生命の尊厳が軽んじられ、人を欺いて富を得るなど、これまでの概念では到底推し量れない出来事ばかりで心の中に虚しさだけが残り、この先出口の見えない暗澹とした真っ暗闇に入ってしまったように感じます。

それでも日本人である私たちは現実をしっかりと見つめ、相手を思いやる心、感謝する心をもう一度揺り動かし、正しい道へと軌道修正していかなければいけません。

さて、当社の2005年度は、昨年度のハイテンポなスタートとは相違して、穏やかな始まりでしたが、これまで進めてきたお客様に信頼を得るための取り組みが浸透し、売上数字では安定的に伸びてきています。これも社員の皆さんが会社方針を自分のものとして消化し、着実に実践してきた証であります。不安材料は、一部の部署、一部の取引先からの受注が集中していることであり、ひとたびコケた時は、ダメージは想像以上に大きなものとなります。安定した生産を継続していくためにも飛耳長目を胸に刻み込み、技術レベルをアップさせ、ポカミスの無い、信頼ある品質を確保し、ポイントとなる部署が、恒常的、平準化した受注形態になる施策をスピードアップさせていくことが急務です。一方原油高、金などの原材料は、投機筋の思惑も絡み、高騰の一途を辿って、製造原価に大きな影響を及ぼしています。会社では製造原価低減に向けた取り組みをしていますが、さらにその取り組みを増幅させるために、一つの柱である創意工夫改善・5S（大清水作戦）に対して、全社員が気持ちを一つにして強力に促進していただくことです。その行動が会社の土台を太くし、どっしりした柱に生まれ変わり、どの側面から押されても微動だにしない、希望に満ち溢れた次なるステップへ大きく飛躍することができそうです。

十八年度の経営・品質方針は「熟慮・即実行」、環

境方針は「環境負荷の低減は一人一人の活動で」にしました。その中核は、コンプライアンス（法遵守）のもと企業の社会的責任（CSR）と経営の安全、作業安全・環境を考えながら、地域社会との共存を図っていくことにあります。特に「熟慮・即実行」の意味するところは、課題に対し製造、スタッフが一連の動きをして、腰を据えながらも、迅速に物事の奥底まで極める追求を行い、目標が定まったら間髪を入れず実践に移すことです。折角良い考えに到達しても実行に移さなければ、タイミングを失って何の効果も出ません。

「熟慮・即実行」を全社員が意識して行動できるようにになれば、社員一人ひとりが会社を動かしているんだという考えになり、情熱と意欲が発揮しやすくなります。臆せずまず行動を起こしてください。またお客様が満足をしていただけるものづくりで一番望んでいることは、素早くかつ丁寧な対応です。会社では現在ものづくりの精度を高めるチーム活動の展開を図りながら、ISOのしくみに則った対応をお願いしていますので、活動の積極的な推進としくみの理解度を深め、実践に当っては柔軟な姿勢で事を進めてください。

平成十八年、十九年、二十年のこの3年間は、会社を大きく変革し、次世代にバトンタッチする道筋に向け、ステップアップしていく大変大切な期間になります。また新たに田中工業が私たちの仲間入りをしました。工場建設を始めたところ弥生式土器が出土し、文化財保護の観点から大幅に工期が延び、本年末のスタートになりますが、順調に立ち上げていくためには皆さんのご協力が不可欠です。また会社は常に健全に成長できる環境を整えなければいけません。

「企業は人なり」のことわざにもあるように、これまでも増して人材の育成・指導が大切になっています。社員教育・訓練の充実に加え、管理者の育成指導能力の向上が望まれます。大いに力を発揮してください。

新しい年の景気動向は、日銀の短観によれば、原油高、個人消費の減速予測、米国経済動向の不透明感などの懸念材料があり、企業間に景気感のズレが生じており、景気の先行きに対しても楽観的になれない状況にあることから注意深く見守っていく必要があります。ただトリノ冬季オリンピック、ドイツW杯サッカーが開催されることによる相乗効果が期待できます。ただ私たちは周囲の状況に一喜一憂するのではなく、社員の皆さんやご家族の皆さんと共に心身の健康を保持し、会社と社員が絆をもっと強くして、会社方針のもと目標を地道に、着実に達成していくことでさらなる成長に向けがんばっていきましょう。

2006 年度環境方針

1. 基本理念

大和電機工業株式会社は“信頼”をもとに、全社員の創意によるあらゆる企業活動の面で、地球環境の保全と地域社会との共存に配慮し行動します。

2. 環境方針 「環境負荷の低減は一人一人の活動で」

当社は電子部品等の電解・無電解金属表面処理業務、電子部品等の印刷・組立、電子部品処理装置等の設計・開発・製造業務活動において、環境マネジメントシステムを構築し関連する環境法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、技術的・経済的可能な範囲で継続的な環境改善を推進し環境汚染の未然防止と危機管理・安全管理に努めます。

- ① 環境マネジメントシステム及び環境目標推進状況は品質/環境定例会、部門長会議、内部環境監査により、確認を実施し継続的な改善を推進します。
- ② 環境保全を推進するため環境に有意な影響の原因となり得る可能性のある項目に対して 2005 年度に第二期長期、短期の環境目的及び目標を作成し活動してまいりましたが本年は昨年を反省し二年目とし達成活動に着手してください。
- ③ 達成に向け全従業員が参加し実行します。
したがって次の事項を含ませる。
 - ◇ めっき工程の水使用量の削減
市水・井水
 - ◇ 紙資源の使用削減とリサイクル化の推進
コピー、ストックホーム紙の削減 ・ B/C ランク用紙のリサイクル
金属屑のリサイクル
 - ◇ エネルギー資源の使用量削減
重油・電気(本社サイト、下諏訪サイトは石油・電気)
 - ◇ 特別管理/産業廃棄物の削減
スラッジ ・ 廃プラスチック類 ・ 産廃金属屑
腐食性廃酸 ・ 腐食性廃アルカリ
- ④ 環境に与える負荷が、最小限となるよう RoHS 指令、有害物質不使用要求への取り組みと危機管理・安全面項目の予防処置および対応方法を定め訓練を実施します。
- ⑤ 環境改善を実施し維持する為の環境教育を各サイトで全従業員に実施し、本方針の理解と環境に関する意識向上を推進します。
- ⑥ 地域周辺への環境保全に配慮し、地域から信頼される事業活動を行ないます。

この方針は、社外の要請があれば必要に応じて公表します。

2005 年 12 月 03 日
大和電機工業株式会社
代表取締役社長 原房利



環境マークは従業員の環境問題への意識の「啓発と高揚」に使用されます。

当社環境マーク

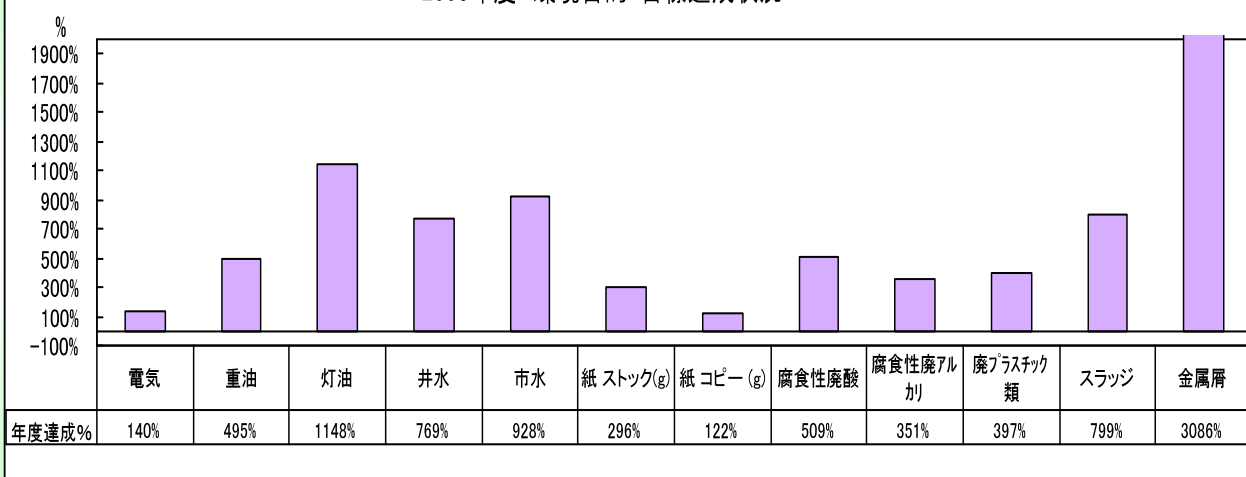
環境保全に関する目標、計画及び実績等の総括

当社はISO14001:2000(JIS Q 14001:2000)の環境マネジメントシステムの運用の中で環境保全に関する目標を定めて、その目標達成のために計画を立てて取り組みしています。

2006年度の環境目的・目標の活動結果

環境側面 (環境影響要素)	2006 年度環境目的・目標推進状況 (原単位換算での対目標達成度)	
電気使用量	140%	
重油使用量	495%	
灯油(石油)使用量	1148%	
水使用量	井水	769%
	市水	928%
紙(ストックフォーム、他)使用量	296%	
紙(コピー用紙、記録用紙等)使用量	122%	
腐食性廃酸排出量	509%	
腐食性廃アルカリ排出量	351%	
廃プラスチック類排出量	397%	
スラッジ排出量	799%	
産業廃棄物(金属屑)排出量	3086%	

2006年度 環境目的・目標達成状況



◎ 2006 年度の環境目的・目標はすべての項目で目標を達成しました。

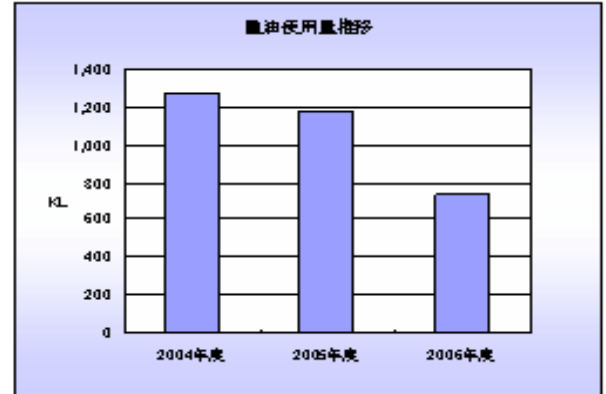
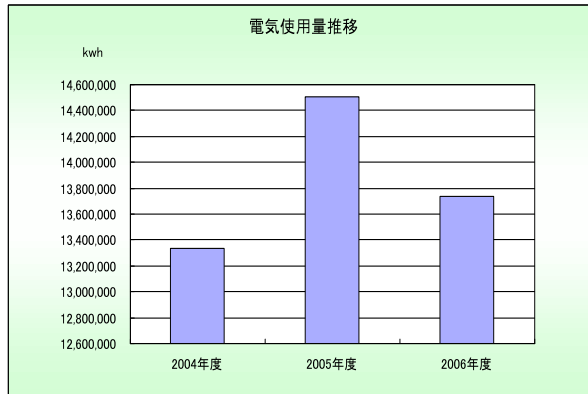
- ・当社では化石燃料である重油の使用量を削減するために重油ボイラーから都市ガスボイラーへ変更しています。このことにより温室効果ガスである二酸化炭素の排出量も削減されています。
- ・当社では特別管理産業廃棄物である腐食性廃酸や食性廃アルカリの社内処理化を進めて排出量削減の効果を上げています。
- ・天然資源である水を大切にするために、リサイクルや節水に努めています。
- ・廃プラスチックや金属屑のリサイクル化に取り組んでいます。



都市ガス
ボイラー



電気・重油使用量推移

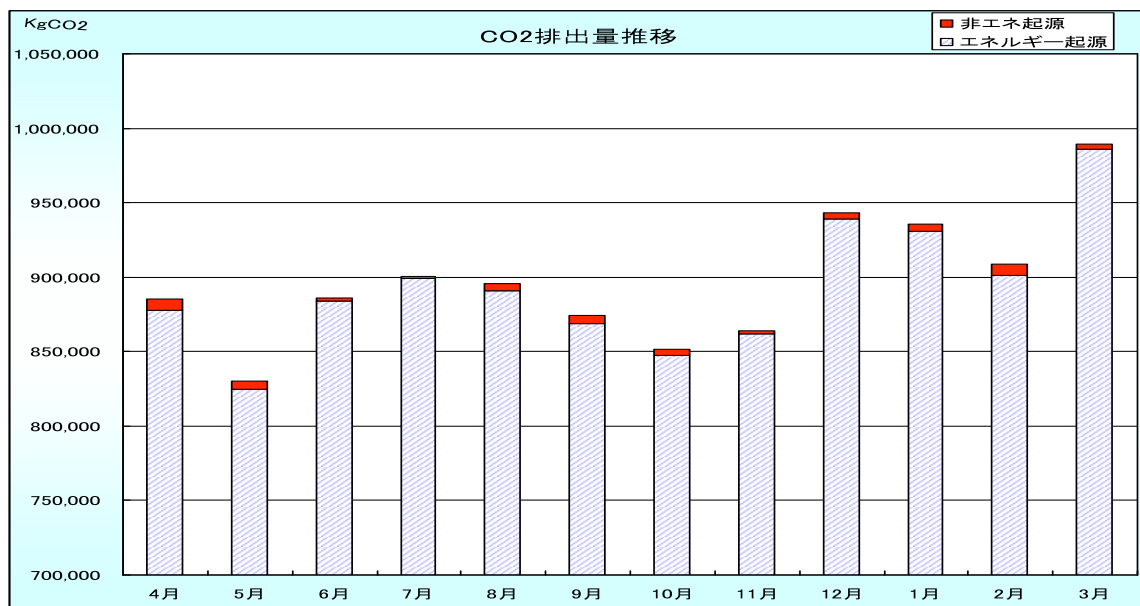


温室効果ガスの削減活動

温室効果ガスの排出量の削減についての法的拘束力のある約束等を定めるものとして 1997(平成 9)年 12 月に採択された「気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書」が、2005(平成 17)年 2 月 16 日に発効し、世界の地球温暖化対策は新たな一歩を踏み出しました。

当社も地球温暖化防止のために温室効果ガスの排出量を削減する活動に取り組んでいます。

主な内容として、重油ボイラーから都市ガスボイラーへの変更や省エネ活動(節電、ボイラー燃焼の効率化や廃熱利用、自動車の相乗り、アイドリングストップ、クールビズ、ウォームビズ等)などの活動を展開しています。



環境に関する社会貢献活動による地域社会との共存

お客様との共存は勿論ですが、当社では地域社会との共存を希求して行動しています。

- ・諏訪湖岸清掃への参加
- ・工業団地清掃活動への参加
- ・新入社員による県道美化活動
- ・事業所周辺の側溝清掃、道路掃除
- ・使用済みプリンター用インクカートリッジの寄付(ベルマーク活動商品)
- ・箕輪町、下諏訪町などへの寄付



箕輪町に寄付の和大電機工業
紺綬褒章を伝達



紺綬褒章を手にする原社長
紺綬褒章は、社会貢献活動に顕著な功績を挙げた個人や団体に贈られる最高級の表彰です。原社長は、社会貢献活動に積極的に取り組んでいること、また、社会貢献活動に顕著な功績を挙げたことにより、紺綬褒章を受章しました。原社長は、紺綬褒章を受章したことを喜び、社会貢献活動に積極的に取り組んでいること、また、社会貢献活動に顕著な功績を挙げたことにより、紺綬褒章を受章しました。

紺綬褒章受章



環境マネジメントシステムの状況

当社では ISO14001:2000 環境マネジメントシステムを環境管理のツールとしており、内部環境監査と審査機関による第三者監査を毎年実施して環境マネジメントシステムの維持と向上に努めています。

適用される該当法規制及び当社が同意するその他要求事項の順守状況

当社に適用される該当法規制及び当社が同意するその他要求事項を定期的に抽出して、定期的にレビューを行って適切に処理を行っています。また、順法性の定期評価を実施して順守状況を確認していますが、該当法規制及び当社が同意するその他要求事項を逸脱する不適合は発生しておりません。

環境に配慮した投融資の状況

当社では環境に配慮した投融資を行い環境負荷の低減に努めています。

2006 年度投資金額

項 目	投資金額	割 合
省エネ/省資源改善	13,210,500	13.2%
法規制	22,091,615	22.1%
危機管理対応	12,230,182	12.2%
環境整備	52,607,350	52.5%
	100,139,647	

グリーン調達状況

当社では様々な化学薬品を使用していますが、お客様の要求事項や RoHS 指令や POPs 条約等を順守するために、新規購入品はアセスメントを行って環境に配慮した薬品の購入を行っています。

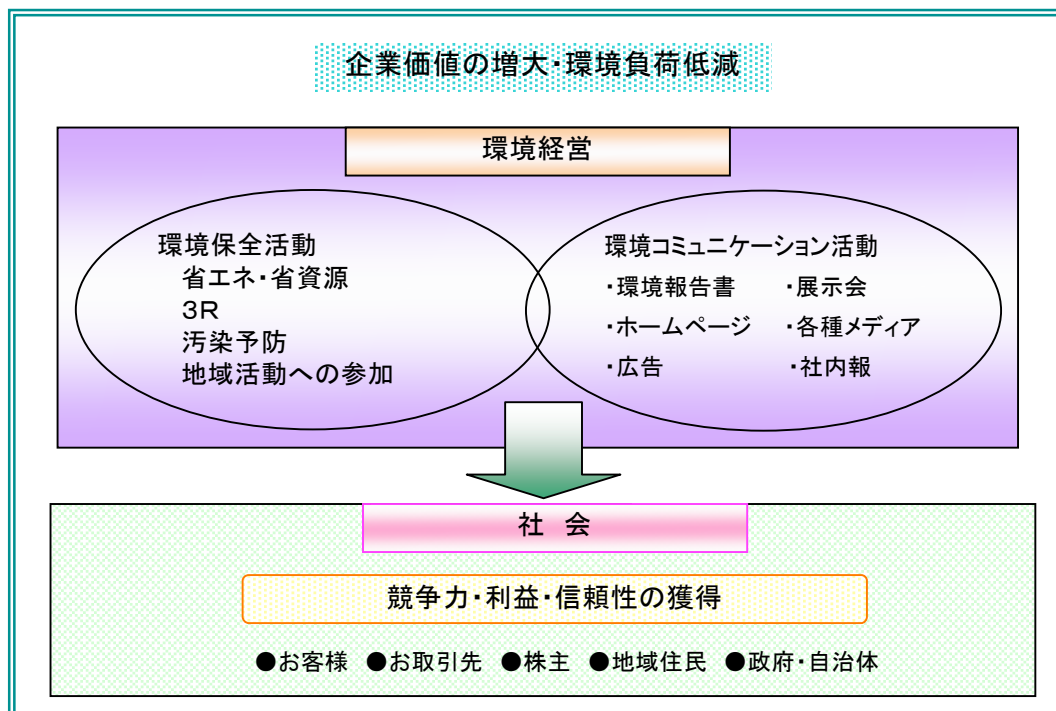
環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況

当社では様々な化学薬品を使用していますが、その中に含まれるレアメタルの埋蔵量も僅かになっているといわれています。当社ではお客様が製品を使用する上で最小のエリヤでめっきができる技術を実用化しています。

環境コミュニケーションの状況

当社ではお客様やお取引先様は勿論のこと地域社会とのコミュニケーションを大切にして、企業価値を認められ信頼される企業を目指しています。

環境経営と環境コミュニケーション



汚染防止

当社では、世界各地やお客様で規制の対象となっている化学物質を、「禁止」、「削減」、「管理」対象に分類し管理しています。「削減」対象の化学物質については、リスク管理の考え方を適用して削減に取り組んでいます。これは、各化学物質の環境影響の大きさに応じて環境影響度係数を設定し、使用量、排出量に重み付けすることで、環境影響の大きな化学物質を把握、重点的に削減していくという考え方です。特に環境影響の大きな RoHS 指令や POPs 条約などで規制された物質やオゾン層破壊物質などに関しては、重点的に不使用や削減を進めています。また、環境リスクを未然に防止するために各サイトは環境への浸透や流出などを防止するための取扱管理を徹底し、汚染防止に努めています。

汚染防止及び緩和措置への対応訓練

